

令和3年度印西市立印西中学校 学校評価の総括

1 「教育方針・目標の理解」について

生徒に関しては、1年生が最も意識が高く94%が肯定的評価をしている。2年生は、84%、3年生は91%であった。職員がよく理解しているのは当然であるが、保護者の肯定的評価が80%であった。昨年度は50%であったので、大幅に上昇したが、回答方法が変わったことと回答率が高くないという現状から、あくまで参考程度にとらえておきたい。学校教育目標を校長室だよりのタイトルにしたことで、ある程度理解に役立ったとも考えられる。

2 「意欲的な学習態度」について

生徒に関しては、1年生73%、2年生71%、3年生89%であった。現3年生の昨年度の割合は77%であったので、これまでの継続的な粘り強い指導と、受験への意識が高まったことの表れと考えている。ただ、1・2年生と全学年の保護者の割合が80%未満であるので、学習意欲向上のため指導方法の工夫改善に努めてまいりたい。

3 「授業力向上」について

「授業がわかりやすい」と回答しているのは、1年生94%、2年生91%、3年生99%となった。どの学年も昨年度より高い割合であった一方、肯定的評価については、生徒が95%、保護者が77%で、その差が18Pと、昨年度より差は小さくなったものの、まだ大きな差をとらえている。この設問に関しては、生徒と職員はほぼ同じ傾向を示すが、保護者との乖離が大きい。生徒と保護者のコミュニケーションの取り方や保護者の関心を高めるための情報提供の在り方を工夫していきたい。

4 「家庭学習の充実」について

「家庭学習に励んでいる」と回答しているのは、1年生95%、2年生81%、3年生86%となった。一昨年度以降、1年生の段階から家庭学習に励む生徒の割合が高くなり、安定してきた。保護者の肯定的評価が80%を超えた。これは、chromebookの持ち帰りにより、生徒が家庭で取り組んでいる姿を見る機会が増えたことも一因と考える。職員に関しては、個に応じた家庭学習の内容や指導方法について、さらに工夫改善に努めたい。

5 「友達への思いやり」について

昨年度に続いて、生徒、保護者、職員の意見がそろった肯定的評価である。加えて、昨年度よりさらに肯定的評価の割合が高くなった。思いやりの心、豊かな心が育っている。

6 「道徳・心の教育の充実」について

本校の道徳教育は、充実している。道徳教育推進教師を中心に全校道徳を各学期1回実施した。また、若年層教員とベテラン教員との相互授業参観を実施し、内容の充実のみならず、授業力の向上も図っている。

肯定的な評価については、生徒が98%、保護者が91%であった。昨年度と比較すると生徒は+4P、保護者は+18Pとなった。保護者の評価が大幅に上昇したのは、

学校での実践内容を、校長室だよりや学年だより、学級通信等で発信していることが奏功したと考えられる。

7 「健康づくり」について

昨年度と比べて生徒、保護者、職員とも肯定的評価の割合が上昇した。ただ、保護者の割合はわずかに80%を切っている。家庭での姿を見ての現実的な数字と考えられる。

8 「一人一人の児童生徒の理解と尊重」について

肯定的評価は、生徒93%、保護者87%であった。昨年度と比較すると生徒+4P、保護者+15Pとなった。生徒指導の重点である生徒理解に努め、一人ひとりを大切にしたい個に応じた指導の成果と捉えることができる。

9 「いじめ問題への対応」について

生徒に関して、肯定的評価は1年生96%、2年生88%、3年生94%であった。保護者の肯定的評価の割合は90%で、昨年度と比べて+21Pとなった。これは、職員が初期対応の重要性を理解して、少しでも兆候が見られた場合、組織的に対応し、家庭との連絡も密にとってきた成果と考えられる。

10 「学校の支援体制」について

生徒の肯定的評価は、1年生96%、2年生87%、3年生95%であった。保護者の肯定的評価については、92%で、昨年度比+16Pとなった。相談・支援体制の充実、生徒指導の原点である。今後も力を注いでいく。

11 「安全と事故防止」について

生徒の肯定的評価は97%、昨年度比+6Pであった。保護者の肯定的評価は95%、昨年度比+16Pである。安全に絶対はない。その姿勢を持って全校で安全教育に取り組んでいる。生徒もそれを理解しているし、保護者にも学校の取組が伝わったことがわかる。

12 「施設・設備の改善・充実」

肯定的評価は、生徒が83%、昨年度比+7P、保護者が75%、昨年度比+12P、職員は44%、+22Pとなった。校舎の老朽化が進み、教職員で可能な限り修繕を行っているが、その対応にも限界があるため、教職員による肯定的評価が低くなっている。ただ、コロナ禍でPTA環境整備作業や、同窓会の環境整備作業も実施できなかったが、「古くてもきれいな学校」を目指して、職員も生徒とともに活動している。

13 「家庭や地域との連携協力」について

肯定的評価は、生徒が73%、昨年度比-3P、保護者が79%、昨年度比+20P、職員については、74%、昨年度比+15Pとなった。生徒、保護者、職員すべてが80%未満となったのは、コロナ禍の影響で多くの事業が中止、縮小された結果であろう。ただ、保護者、職員の肯定的評価が上がったのは、コロナ禍の中でも、可能な範囲でできるだけ代替行事や、新たな取組を実施してきたことが要因であると考えられる。

文責 校長 渡邊 義規